



## 沖縄の中の日本問題 (11月のごあいさつ)

平成 27 年 11 月 1 日 (日)

11 月、京都の紅葉は年によっては最高の紅を見せてくれます。物事の特徴を發揮するとはこのようなことではないかと思えます。

一般に言われている**日本の中の沖縄問題**ではなくて、沖縄に十分なチャンスを与えてこなかった日本政府のやり方が**沖縄の中の日本問題**ではないだろうか。

10 月 22 日に、台湾の江丙坤先生(元経済大臣)の講演を拝聴し、翌日 23 日に、英字新聞マニラ・タイムス社主アン・ダンテ氏(元海外貿易大臣)に面会する機会が持てた。

お二人とも話の中で、**東アジアの弧**(フィリピン、台湾、沖縄、日本)の**中心としての沖縄の可能性**について話された。過去も現在も沖縄がその**可能性を十分に生かしていないという印象**を持たれているように感じた。

江先生は、日本と台湾との協力関係の強化による対中国、東南アジア諸国、さらには世界との貿易の振興について尽力されている。特に投資を呼び込むための手続きの簡素化や行政の支援の必要性について、**沖縄における一国二制度**による、**地域の自立と効果的な活動**にまで話題が及んだ。

また、アン・ダンテ社主は、今回の来沖は、創立 107 年のマニラ・タイムスによる語学学校の設立のマーケティングを兼ねておられ、沖縄における語学(特に英語)教育の普及の必要性を語られた。英語教育により、**アジアの眠れる巨人沖縄**(アン・ダンテ氏の表現)は目覚め、その可能性を大いに發揮するべきだと話された。

第二次大戦後、**米国の対日救済資金**(ガリオア資金、融資を含む)は、18 億ドル(当時の 6 千 5 百億円)と言われ、日本の経済的自立心も相俟って、戦後の再建・独立に大きな経済的役割を果たした。一方、復帰後の**日本政府等の公的資金**(融資を含む)の沖縄への投入は 10 数兆円とも言われている。しかし、その役割と効果は、40 年を経た今も、沖縄振興計画の名が残るように充分とは言えない。**資金の投資効果**のスピードと成果の差は何であろうか。

明治初年、日本はそれまで**日中両属の関係**にあった**沖縄を日本の領有と宣言**した。そして、南進基地、**太平洋戦争の戦場**、米軍の占領、**復帰後の基地の提供**という地域の利用が専らであり、日本政府は沖縄を利用という観点でとらえ、沖縄の振興と自立心の向上には取組んでこなかった。これが**振興策の速度と効果**に現れ、**沖縄の中の日本問題**と感じるのではないか。

蛇足ながら、韓国の反日感情の根底には、韓国にチャンスを与えようとしなかった日本の占領・教育政策があるとも言われている。